

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1
江ノ電第2ビル7F
TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

♪♪ オクトーバーフェスト 盛会裏に終了 ♪♪

恒例の湘南オクトーバーフェストは10月3日(日)ドイツ統一記念日にグランドホテル湘南を会場に開催され、130名の参加者で賑わいました。

当夕はエーデルワイス・カペレ・トリオを迎えお馴染み「ムゼル合唱団」が梶井先生のソロもあり日頃の練習の成果を十分に披露しました。

初めての会場で不慣れな点があったと思いますがこの経験を生かしより楽しいオクトーバーフェストを開催したいと関係者一同思いを新たにしています。

「横浜日独協会発足」

10月16日ドイツ学園のオクトーバーフェスト開催日、シュタンツェル駐日ドイツ大使ご臨席の日独修好150周年記念の開会式が華やかに行われました。当日の午後3時102教室で、教室に入れないほどの多くの出席者を迎え、大使からのお祝辞も頂き横浜日独協会の発足式がありました。半年以上にわたり湘南日独協会が織田会長始め協会をあげて支援した成果です。これからは姉妹協会として相互に支援協力をし盛り立ててゆきたいものです。

浜日独協会

〒220-0041 横浜市西区戸部本町44-15-302

「150周年記念関係予定行事」

2011年4月14日(木)

独日協会連合会会員約60名がドイツから来訪され横浜鎌倉の観光、その後湘南及び横浜日独協会会員との交流会を鎌倉で開催

2011年4月24日(日)

全国日独協会連合会総会(奈良)

2011年4月25日(月)

日独交流150周年記念式典(奈良)

2011年5月9日(月)

湘南日独協会主催日独交流150周年記念「日独音楽家の集い」演奏会を鎌倉芸術館で開催(現在プログラムを詰めております)

2011年11月3日 横浜大榎橋ホールでの閉会式
(閉会式はドイツ大使館主催)

湘南日独協会の活動予定

■ 72 回月例会

日時 11月21日(日) 18:00~20:00

講師 織田 正雄氏 当協会会長

「ベルリンの壁崩壊の前後一年の記録」

現場に立ち会った生々しい証言とDVDの映像による世界に変革をもたらしたベルリンの壁崩壊前後の講演です

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 1,000円

■ 12 月懇話会

例年のように望年会を開催します

日時 12月4日(土) 18:00~

会場 Noka Table (ノカ テーブル) (野菜創作料理)

藤沢市南藤沢23-5 東ビル1F 0466-26-1535

会費 4,500円 (ビール、焼酎、ソフトドリンク飲み放題。
ワイン、日本酒は各自負担)

先着 35名

なお、福引を予定しています。景品をご提供される方は当日お持ち下さい。お席は自由席です。楽しい一夜を過ごし希望に満ちた来る年を迎えましょう。

■ 1 月例会及び総会

日時 1月23日(日) 13:30~

(総会の案内は次号で詳しくお知らせ致します)

■ 2 月懇話会

日時 2月26日(土) 18:00~

■ 3 月例会

日時 3月27日(日) 13:30~

■ 4 月懇話会

日時 4月23日(土) 18:00~

■ 5 月例会

日時 5月22日(日) 13:30~

■ 6 月懇話会

日時 6月25日(土) 18:00~

(講師並びに演題、テーマは未定です)

ドイツ映画祭開催

11月12日(金) 13日(土) 14日(日)

MOVIX 本牧/横浜 www.goethe.de/tokyo

新入会員紹介

(敬称略)

星野 諭 森田 麻衣子 林 孝司

(前9月号からの続きです)

ノーベル平和賞を誕生させた女性

会員 宮下 啓三



日本人2人の化学賞受賞、反体制作家である中国人の平和賞受賞。今年のノーベル賞は日本人にとっての朗報と世界的な議論のたねをもたらしました。それにしても、ノーベル賞の受賞者を決定する組織はスウェーデンにあるのに、平和賞だけがノルウェーで選ばれるというのは、なぜなのでしょう。

ノーベル平和賞の女性第1号であった人の顔がドイツ切手に描かれています。その女性の名はベルタ・フォン・ズットナー。オーストリアの女流作家で、ドイツ語で小説を書く人でしたが、1905年にノーベル文学賞ではなくてノーベル平和賞をさずけられました。

ベルタの人生は波乱に富んでいました。貴族の家柄であることが名前についた「フォン」の文字にあらわれていますが、家が没落したために、あるお屋敷の娘たちを教育する仕事を始めました。娘たちの兄である青年と恋愛関係におちいりました。雇い主が困って彼女を家から遠ざけようとして、就職の世話をしました。外国語に堪能だったベルタは、パリに生活拠点を置いていたノーベル氏に才能を買われて、秘書と家政婦を兼ねる仕事につくことになりました。

パリに来たものの、ウィーンにいる7歳年下の若い恋人を忘れられず、ノーベル氏に置き手紙を残してウィーンに戻って、ひそかに2人だけの結婚式を挙げてから、ヨーロッパとアジアの境に位置するグルジアに移り住みました。「この世の天国」と聞いていたのに、行ってみればそこは民族紛争で人々が憎しみあい殺しあう土地でした。身近に戦争の悲惨さを見聞きしてヨーロッパ中央に戻ったベルタは、心底から戦争を憎しみ平和を求める作家に変身しました。彼女は戦争がもたらす不幸をテーマとする小説で名高い作家となりました。さらに、平和を説くために講演してまわりました。

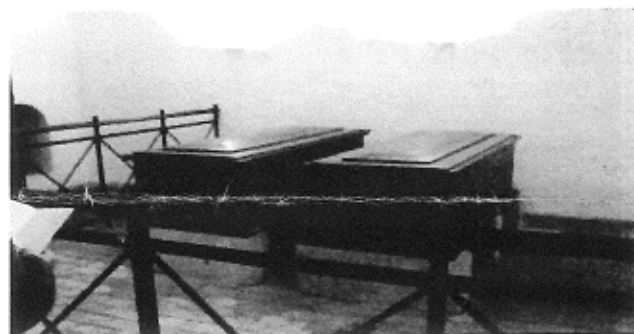
そうして、戦争のない世界を作るための言論を世にひろめるためにノーベル氏にも協力を求めました。ノーベル家での仕事を実捨てた女性の求めに応じたノーベル氏も立派です。ノーベル賞の発足を決めたノーベル氏に、ベルタは平和賞を加えるようにと熱心に説得をつづけました。すでに決まっていた構想に後から付け加わったという事情が、平和賞だけノルウェーで受賞者を決定するという、特別な仕組みを生む理由となりました。

切手はベルタ・フォン・ズットナー(1844～1906)の生誕150年にあたる年に発行されました。ベルリンの壁が消えてふたたび一つになったドイツが国際平和へのいっそう大きい寄与を誓う意思を示す切手でした。

続続『ヴァイマル探訪記』

会員 寺田 雄介

瞬間に最終日になりました。午前中は街の中心部から少し離れたところにある、ヴァイマルゆかりの偉人たちが眠っている墓地へ行きました。カール・アウグスト公、ゲーテ、シラーに始まり、計44人もの偉人たちが眠っています。写真を撮るべき場所ではないのですが、わざわざ日本から来たので一枚だけお許しください、と心の中で言い訳をしながらシャッターを押しました。左がゲーテ、右がシラーの棺です。



午後はブッヘンヴァルトの収容所へ向かいしました。ゼンゲさんが是非一度は見ておいたほうがいい、と誘ってくださったのです。ヴァイマル市の中心部から車で約15分。途中、窓からは一面の菜の花畑が見えました。あまりに鮮やかな黄色が続くので、まるでこの世ではない場所に向かっているような、不思議な感覚に襲われました。

午前中に訪れた墓地とは違い、収容所では写真を自由撮って構わないそうです。実際に、多くの観光客が“Jedem das Seine”と書かれた収容所のゲート前で記念撮影をしていました。しかし、なぜか私にはそれができませんでした。理由は未だに自分でもよくわかりません。広島原爆ドームを初めて見学したときと同じような、奇妙な息苦しさを覚えたのです。収容者が運ばれてくる電車の終着駅、ゲート、監視塔、電流フェンス、バラックの跡、拷問部屋、ガス室。全てが生々しくそこにありました。敷地の一番奥にあった展示館には、ブッヘンヴァルトに関するあらゆる資料が残されていました。収容所で亡くなった人たちの服、靴、帽子、パッチ、家族の写真、その他身の回りの物など。また、ブッヘンヴァルトが解放された当時のモノクロの記録動画があり、収容者たちの当時の生の声も聞くことができます。一方でガス室や銃で殺された人々の様子や、積み上がった死体の山を写したものもあり、その凄惨な風景を目の当たりにすると、食事なんてとても喉を通らなくなります。しかし、ゼンゲさんの言う通り、これもまたヴァイマルなのです。ゲーテやシラーの華やかなる時代はあくまで街の一面に過ぎないと、改めて気づかされました。

本文では触れることはできませんでしたが、ヴァイマル独日協会のローマン会長にもホテルの一室をご提供いただきました。また、パウハウス副会長とゼンゲ理事には、お忙しい中にもかかわらず、私のために時間を割いてくださったことを、ここに心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回の旅では、ヴァイマル滞在中の宿泊費をヴァイマル側に負担していただいただけでなく、8万円の援助を湘南日独協会より頂きました。それは、訪湘の折、当協会に歓待されたことのお礼に、若手会員交流のための資金にお役立てください、とヴァイマル日独協会が織田会長にお渡しくださったものでした。つまり、私がこれほどの貴重な体験をすることができたのも、ひとえに湘南日独協会の皆様のご活躍のおかげなのです。この場を借りて会長並びに会員の皆様に御礼申し上げるとともに、協会のさらなる発展をお祈り申し上げます。(了)

====* * *====* * *====* * *====

♪♪湘南オクトーバーフェストに参加して

David Garde

(ガルデ氏は湘南日独協会ドイツ語講座の講師)



(会場で談笑する筆者)

Das Oktoberfest in Shonan Fujisawa war wirklich schoen und hat heimatliche Gefuehle in mir hervorgerufen. Ich bin wirklich erstaunt ueber die Bereitschaft und Begeisterung Japans, Deutsche Kultur zu erleben und zu geniessen. Das selbe gilt fuer mich, im umgekehrten Sinn. Ich liebe und verehere Japanische Kultur, vorallem die traditionelle und kulinarische. In diesem Sinne, moechte ich mich noch einmal herzlich bedanken und hoffe auch das naechste mal dabei sein zu duerfen. In unserer Zeit ist es nicht leicht, eigenstaendige Tradition aufrecht zu erhalten und fordert viel Bereitschaft und Engagement. Ich finde deshalb das Oktoberfest eine genuessliche art dies zu tun und zu erleben. Es hat dadurch eine magnetisch Anziehungskraft fuer jung und alt gleichermassen und vermittelt ein Gefuehl von Gemeinsamkeit das uns oft fehlt. Dies gilt besonders fuer Leute wie mich, die als Deutsche in Japan leben, fuer Japaner die Deutschland in Japan vermissen aber auch fuer die Japanisch Bevoelkerung die nicht viel von Deutschland weiss. Ihr wird dadurch ein Zugang vermittelt. Zusammenfassend wuerde ich sagen, stellt das Oktoberfest in Japan fuer mich eine gute friedliche Verstaendigung zweier Laender ueber einen interessanten Kulturaustausch dar und ich hoffe, dass es so bleibt und noch viel mehr Anhaenger haben wird.

♪♪ Oktoberfest 会場

エーデルワイス・カペレのステージ



乾杯！ブロースト！ 盛り上がる会場



(伏見)

藤沢での湘南オクトーバーフェストは本当に素晴らしく私に故郷への思いを呼び起こしてくれました。日本でドイツの文化に触れ楽しむことにこれほど熱心に取り組まれていることに驚きました。翻って、私は日本の文化、特にその伝統と美食、を愛し尊敬しています。この意味から、もう一度お礼を述べるとともに次の機会にまた参加出来ることを希望しています。今の時代、独自の伝統を正しく維持する事は容易ではなく、多くの周到な準備や多くの人たちの関与が必要です。オクトーバーフェストはこのような事を実行し経験する楽しい方法だと思います。それが若者と年配者を引き寄せる磁石のような力となり、私たちがしばしば欠落を感じさせられる連帯感をもたらしてくれます。私のようにドイツを離れて日本に住むドイツ人や日本でドイツを懐かしむ日本人には格別なものですが、ドイツの事を余り知らない日本人にとっても大変良い事だと思います。私は日本におけるオクトーバーフェストは興味深い文化の交流による2国間の相互理解の素晴らしい機会であると申し上げると同時に、これからも継続されより沢山の人が参加されることを希望します。

(大意の責は編集子です)

お知らせ

オクトーバーフェストの動画 (DVD) のご希望の方は事務局へご照会下さい。大石理事が作成しました原版があります。ご希望の方へは複製をお作り頂けるそうです。

私とドイツ (3)

「ニーベルンゲンの歌」から見える史実

会員 木原 健次郎



(筆者は前列向かって左端 デュッセルドルフにて)

以前、本誌上で御紹介しましたが、湘南日独協会ドイツ語クラスの仲間で、「ニーベルンゲンの災い」(Franz Fühmann 原作)を翻訳し、5月に自費出版致しました。

この作品は、かのゲルマン叙事詩「ニーベルンゲンの歌」(作者不詳、13世紀初頭に成立とされる)を映画化する為のシナリオですが、「ニーベルンゲンの歌」自体、北欧神話から歴史的事実まで、幅広い時空に跨った素材を基に、一大文学作品にまで昇華させたもので、私のような門外漢が論評出来るものではありませんが、歴史を趣味とする者として、この作品に影響を与えた史実の一部を御紹介したいと思います。

「ニーベルンゲンの歌」のストーリーを貫くテーマの一つに、二人の女王(ブリュンヒルトとクリームヒルト)の争いがありますが、その原型と思われる一連の事件が実際にあったのです。

時代はずっと遡り、ドイツの概念成立以前、6世紀後半、メロヴィング朝フランク王国。アウストラシア(都:Metz)のジギベルト1世(兄王)が西ゴート(Toledo)王女ブルンヒルデを妃とした事に始まる。ネウストリア(都:Soissons)のヒルペリヒ王(弟王)は、王妃を離別し、妃の侍女フレデグンデ(嫉妬の塊)を妾にしていたが、兄王の結婚を羨み、我もと、同じ西ゴートの王女(ブルンヒルデの実の妹)を妃とするが、嫉妬に燃えたフレデグンデに唆(そそのか)され、ベッドの上でこの新妻を殺し、フレデグンデを妃とする。復讐に燃えたブルンヒルデと、フレデグンデは、其々の夫に戦争をけしかける。この新妻の婚資返還を巡る争いでジギベルトが勝つが、その直後、彼はフレデグンデの刺客に倒れ、ブルンヒルデは捉えられる。妹を殺され、又、夫王を暗殺されたブルンヒルデは復讐に燃えるが、彼女も女、ヒルペリヒの先妻の子メロヴェ(甥にあたる)を見て恋に落ち、司教を説いて不法の結婚をする。フレデグンデは、これに怒り、結婚を認めた司教を、祭壇の前で殺し、メロヴェは自死。この後まだまだ凄惨な殺し合いが続き、最後には、ブルンヒルデが、クロタール2世(フレデグンデとヒルペリヒの子)に、八つ裂きの刑で殺される。

歴史はその後、カール・マルテルの時代、カール大帝の時代へ、更に9世紀のヴェルダン条約、メルセン条約を経て東

フランク王国(ドイツの原型)成立へと繋がって行きます。

尚、「ニーベルンゲンの災い」は、藤沢市図書館、鎌倉市図書館、横浜中央図書館、東京ドイツ文化センター、Deutsches Institut fuer Japanで蔵書されています。

~~~~~

## かまくら国際交流フェスティバル2010

フランクフルトソーセージと似顔絵で参加



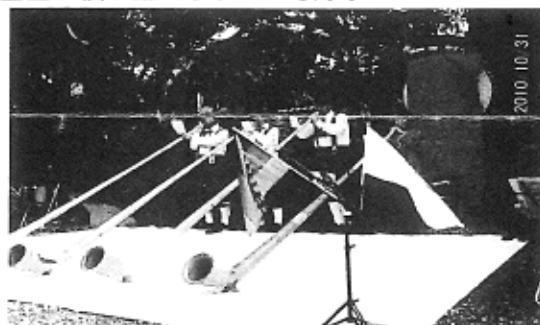
(似顔絵を描かれる宮下先生)

2010年10月31日(日)恒例の高徳院(鎌倉大仏)で開催された、かまくら国際交流フェスティバルに今年も湘南日独協会として参加しました

水谷理事を中心に、三谷理事、三宅芳子、阿部仁、志賀ギゼリンデさんらが駆け付けお手伝いし、ソーセージを焼いて販売、理事宮下先生の似顔絵描きは行列の出来る大人気でした。

ステージではアムゼル団員の鬼久保洋治さんが”アンサンブル・ダンケシェーン”でアルペン音楽を披露し大喝采を浴びました。

織田会長も朝から会場で、関係者への挨拶対応をされており、また多くの会員も会来場し楽しんでおられました。なお、売り上げは毎年、湘南日独協会の国際交流基金へ積み立てられています。



(アンサンブル・ダンケシェーンの演奏)

## 編集後記

オクトーバーフェストが盛会に終わりましたが反省改善の材料も出て来ました。来年は記念の音楽会、ドイツからの大きなデレゲーションも迎える予定があります。出来るだけ早く正確に皆様に情報を提供できるよう努めます。会員の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

(大久保)

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★

URL : <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。